冨士見百圖

初編

199

昭慶門院の御屏風。押色紙に和歌あれど富士を繪くこと是より古し。建永の頃最勝四天王院乃御障子にも。此山を描しありしと。東福寺の虎関和尚。扇面水底富士の五絶の詩あれば。五明に写すも亦久し。雪舟の一幅は。唐人の讃ありて。その名山と世にも名を妙之といへども。いづれも一山一景まで補景の三保の田籠の浦。今までは奇しくもなかりし。

154.7
.H35a

Can't remember whom from

以降大雅堂が百富士と近年にありて文翁の富
嶽図あり。晴雨に趣を変遷をして異にせる不二の
画此に尽ぬと於にては今に於るは一として風韻高く感ずる
而已にて素人の覧るは届かずして一も海岸に遇。遠景あれ
ども理屈なければいとさらかん。此百図は倣顰らしく
俗なる光景を画けせるに主となる変化眺望の真に遇り。
且ちる形様の自由を得てれが對へる同様悦ばして見

臨ずば規矩を守りにより習へば君錫子は真にまらる
北斎翁のち草の體あり。ぬいで玄子のち行にして
因しく四度解なかりしが聖人の所謂中庸の如し
天下の大本なれども出ず中行にして机上にて当なき
らば兇も一つの利徳あらんと需に應じて端書するのみ

乙未新春

柳々仙果

葛飾の卍翁先に富嶽百景と題して一本を著すこハ翁が
例の筆才にて草木鳥獣器財のたぐひ或ハ人物都鄙の
風俗筆力を尽し絵組のおもしろきを専らとし
不二ハ其あしらひにいたるも多し此図ハ夫と異にし
て予がまのあたりに眺望せしを紙上に写し
たる草稿を清書せしのミ小冊紙中に世にもれたれど
極密なれバ写しがたく略せし處も亦多けれど図ゑハ
全く写真の風景にして遠景像なきハ人ちかく一時の
興に備ふるのミ筆の拙なきハ申すもさらなり

立斎志

武蔵
本牧

武蔵
加奈川
海上
芝村
横濱

東海道
大森縄手

東海道
南湖之松原
左り不二

木曽街道
塩尻峠

信州
諏訪湖

東都隅田堤夕景

駿州三保之松原

駿河
不二の沼

甲斐
犬目峠

甲斐
大月の原

東海道
箱根湖水

十三

下總
藤塚
桃園

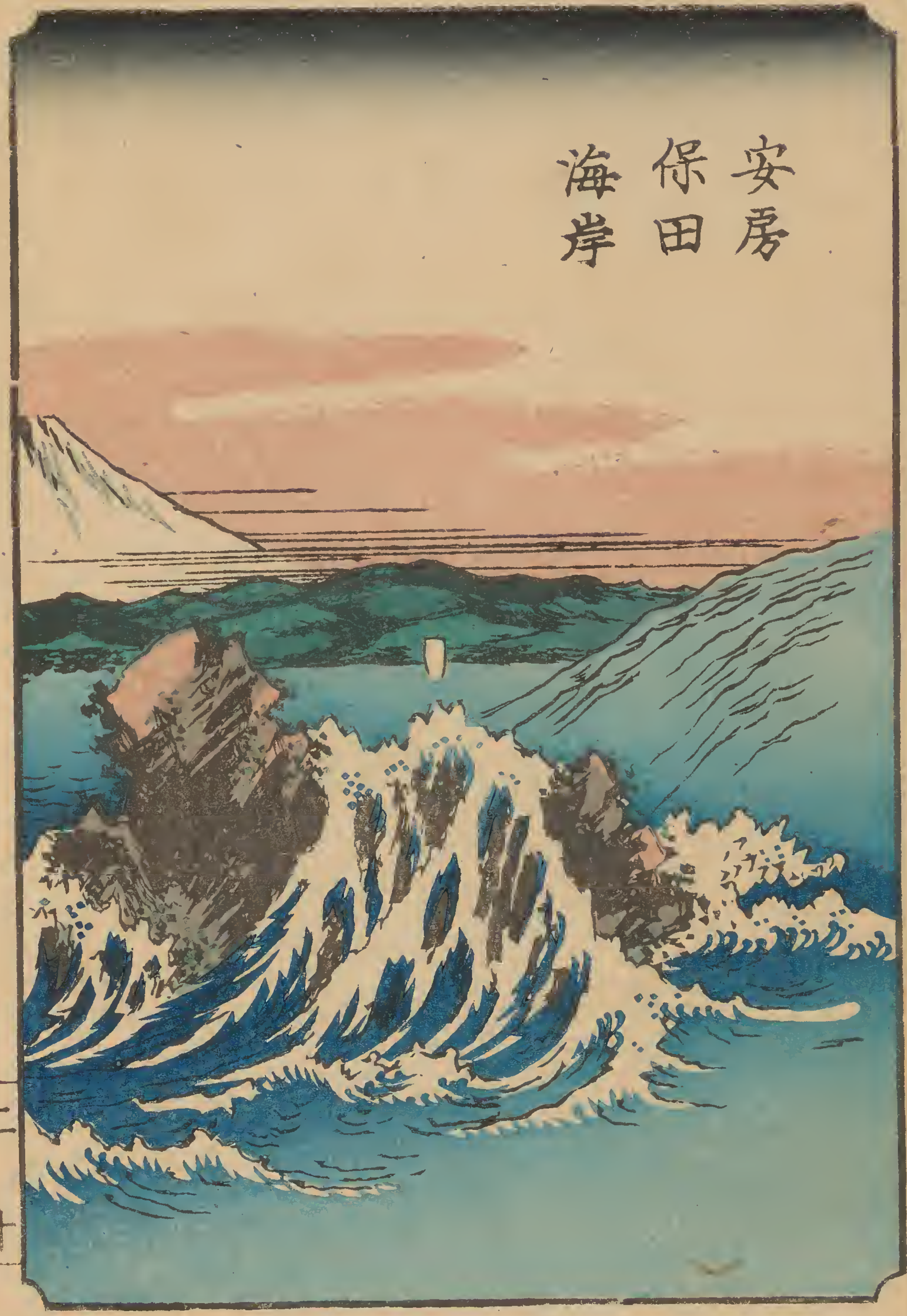
上総鹿埜山
南の眺

下總
堀江
猫實

上総天神山
海岸

武蔵
小金井堤

上總
木更津


安房
保田
海岸

36 views of Fuji .. by Hiroshige